

岩手県の 土地改良

2019(5月) No.580

発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260
編集発行人／田山 清 印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>



CONTENTS

- 岩手県土地改良事業団体連合会第61回通常総会を開催…………… 2
- 平成30年度土地改良功労者表彰…………… 3
- 全土連会長に二階俊博氏が再任…………… 4
- 本県から1土地改良区、2氏が荣誉に輝く…………… 4
- 大宮惇幸氏が岩手県農林水産業表彰を受賞…………… 5
- 令和元年度予算の十分な配分を要請…………… 5
- 土地改良区の運営基盤強化に向けて…………… 6
- 陸前高田土地改良区が発足…………… 7
- 令和元年度水土里ネットいわて新規採用職員…………… 7
- 平成30年度水土里ネットいわて資格取得者…………… 7
- 令和元年度水土里ネットいわて事務局体制図…………… 8

「恵山の春」 村上 廣一

平成30年度「農村景観」写真コンクール 風景部門 入賞作品



岩手県土地改良事業団体連合会第61回通常総会を開催

— 令和元年度事業計画、一般会計予算など9議案を承認 —

本会は3月18日、第61回通常総会を開催し、令和元年度事業計画や一般会計予算など9議案を審議した。

総会には、達増拓也岩手県知事をはじめ、佐々木順一県議会議員、高橋ひなこ衆議院議員、平野達男参議院議員、東北農政局長の代理として長田朋二次長、千葉匡県農林水産部農村整備担当技監、各広域振興局農政部農村整備室長など、多数の来賓にご臨席をいただいた。

開会にあたり及川正和会長は、「昨年は、土地改良区の業務運営の適正化を図るため、土地改良法が一昨年に続いて改正され、今年施行されることになっている。この改正によって、特に複式簿記が未導入の土地改良区にあっては、管理施設の評価を急ぐ必要がある。本会としては、相次ぐ土地改良法の改正に対応しうよう、会計指導員による指導監査を強化するなど、土地改良区の適切な資産管理に向けて積極的に取り組みたいと考えている。

農業の競争力強化に向けた政策目標や、国の謳う農政新時代への対応、多発傾向にある自然災害への対応に向け、国や県、関係機関と連携し、役職員一丸となって努力していく」と挨拶した。

引き続き行われた、土地改良功労者表彰では、永年にわたり農業農村整備の推進や土地改良区の運営に貢献した役員5名と職員13名に対し、及川会長から表彰状と記念品が贈られた。

議事では、紫波東部土地改良区の阿部萬太郎理事長が議長に選出されて議案審議が進められ、平成29年度事業報告及び決算、平成30年度補正予算、令和元年度事業計画及び予算など9議案が議決された。

最後に、安定的・計画的な農業農村の整備を進めるために必要な予算を確保することや、土地改良区の運営基盤強化に向けた支援を推進することなどを求める決議を採択し閉会した。



【挨拶をする及川会長】

決 議

- 国においては、安定的・計画的に農業農村の整備が進むよう、令和2年度当初予算において、現場のニーズに十分応えられる規模の農業農村整備予算を確保すること。
- 担い手への農地集積や生産コストの低減、高品質・高収益作物生産の前提となる水田の大区画化・汎用化を一層推進するとともに、中山間地域等においても、農業経営の持続的発展に向けて、地域特性を踏まえた基盤の整備が可能となるよう十分配慮すること。
- 大規模地震や豪雨等の大規模災害から復旧・復興を早急かつ加速的に進めること。あわせて、防災・減災、国土強靱化に資するよう、農業水利施設やため池の設備補修、改修、耐震化等に十分な支援を行うこと。また、今国会に提出されている「農業用ため池の管理及び保全に関する法律案」の早期成立を図るとともに、必要な措置を講じること。
- 多面的機能支払制度の推進に当たっては、地域協議会や水土里ネットがこれまで培った技術、経験など持てる能力を十分に発揮し、制度の効率的・効果的な推進に貢献できるよう、十分な予算を確保すること。
- 一昨年の土地改良法改正を踏まえて、農地中間管理機構と連携したほ場整備事業やため池等の耐震化、農業水利施設の更新整備を地元のニーズに応じて速やかに進めること。
- 昨年6月に成立した改正土地改良法の適切な実施を図るため、その啓発普及に努めるとともに、土地改良区の意見を十分に踏まえつつ、土地改良区の運営基盤の強化に対する支援を推進すること。また、土地改良区の円滑な運営の基礎条件である農事用電力料金の維持に向けた措置を講じること。
- 県においては、本県農地の8割を中山間地域が占めている特質に配慮し、計画的に生産基盤の整備を進めること。

平成31年3月18日 岩手県土地改良事業団体連合会 第61回通常総会
「農業・農村のセーフティネットを目指して」

— 平成30年度土地改良功労者表彰 —

●役員の部

氏 名	所 属	役 職 名
千 葉 信 夫	照 井 土 地 改 良 区	理事
菅 原 喜 一	市 野 々 土 地 改 良 区	第二理事
丹 野 貞 男	須 川 土 地 改 良 区	総括監事
佐々木 清 志	須 川 土 地 改 良 区	理事
小野寺 寛	一 関 東 部 土 地 改 良 区	理事

●職員等の部

氏 名	所 属	役 職 名
佐 藤 賢 治	一 関 市 川 崎 支 所	産業経済課長補佐兼農林係長
滝 沢 健 一	豊 沢 川 土 地 改 良 区	企画管理係長心得
高 橋 祐 也	豊 沢 川 土 地 改 良 区	財務係主任
高 橋 拓 郎	岩 手 中 部 土 地 改 良 区	事業課長補佐
高 橋 優 恵	胆 沢 平 野 土 地 改 良 区	総務課主査兼総務係長
後 藤 弘 利	胆 沢 平 野 土 地 改 良 区	水利整備課施設係主任
佐々木 稔	胆 沢 平 野 土 地 改 良 区	水利整備課用排水係主任
佐 藤 貴 浩	胆 沢 平 野 土 地 改 良 区	企画換地課換地係主事
佐 藤 和 文	江 刺 猿 ヶ 石 土 地 改 良 区	工務課換地調整係長
佐々木 珠 恵	照 井 土 地 改 良 区	総務課庶務係長
小野寺 秀 明	一 関 東 部 土 地 改 良 区	事業課長
高 橋 敬 史	岩手県土地改良事業団体連合会	農村振興部農村整備第二課主査
山 澤 悟	岩手県土地改良事業団体連合会	農村振興部水土里情報推進室主査



全土連会長に二階俊博氏が再任

3月26日に開催された全国土地改良事業団体連合会第61回通常総会において、役員の任期満了に伴う改選が行われ、会長に二階俊博和歌山県土地改良事業団体連合会会長が再任された。



本県から1土地改良区、2氏が荣誉に輝く

— 全国水土里ネット表彰式が開催 —

3月26日、全国土地改良事業団体連合会は、第60回全国土地改良功労者等表彰式をシェーンバッハ・サボー（東京都砂防会館別館）にて開催し、吉川貴盛農林水産大臣、進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問（参議院議員）をはじめ多数の来賓が出席した。

この全国土地改良功労者等表彰は、良好な運営を継続している土地改良区と、その運営に多大な貢献をされた個人を表彰するもので、110土地改良区、個人114名が荣誉に輝いた。

開会に当たり二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長は、「本日、表彰の栄に浴される皆様の豊富な経験と培った知見が、これから我が国の農業農村を発展させていく上で尊く貴重なものとする。今後も引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます」と式辞を述べた。

また、吉川農林水産大臣が、「永年にわたり土地改良区の発展に多大なる貢献と大きな成果をあげてこられた功績に敬意と感謝を申し上げます。本日の表彰が、全国各地で地域農業の振興



【式辞を述べる二階俊博全土連会長】

に尽力されている方々の励みとなることを願う」と祝辞を述べた。

本県からは、団体表彰の銀章を一本木土地改良区（松村正行理事長）が受賞し、個人表彰には鈴木明夫北上川東部土地改良区理事長、阿部洋一照井土地改良区事務局次長兼工務課長がそれぞれ受賞した。

◎第60回全国土地改良功労者等表彰『団体表彰』
銀章：一本木土地改良区



【一本木土地改良区松村正行理事長(左)、山口吉男事務局長(右)】

◎第60回全国土地改良功労者等表彰『個人表彰』
役員：鈴木明夫（北上川東部土地改良区理事長）
職員：阿部洋一（照井土地改良区事務局次長）



【鈴木明夫北上川東部土地改良区理事長(右)、阿部洋一照井土地改良区事務局次長(左)】

大宮惇幸氏が岩手県農林水産業表彰を受賞

— 平成30年度いわて農林水産躍進大会にて —

1月8日、岩手県民会館において、『平成30年度いわて農林水産躍進大会』（主催：いわて農林水産振興協議会、岩手県）が開催され、「岩手県農林水産業表彰」、「岩手県アドプト活動モデル賞」、「岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞」の授与が行われた。

「岩手県農林水産業表彰」は、永年にわたり農林水産業に関する団体の運営、協同組織の育成又は農林水産業の技術向上発展に尽力され、顕著な功績があった方を表彰するもので、大宮惇幸 雫石町土地改良区理事長ほか8名が受賞した。



【表彰状を手にする大宮理事長】

「岩手県アドプト活動モデル賞」は、公共施設等の適切な管理に向け、施設管理者と地域・企業等が協定を締結し、協働で保全活動に取り組み、県内の模範となる団体へ贈られるもので、4団体が受賞した。

○岩手県アドプト活動モデル賞

受賞団体	市町村
(実施団体) 友槻会	北上市
(協定団体) 岩手中部土地改良区	
(実施団体) 奥中山高原菜魚湖の会	一戸町
(協定団体) 馬淵川沿岸土地改良区	



【前列左から伊藤会長（友槻会）、高橋副理事長（岩手中部土地改良区）、福田代表（奥中山高原菜魚湖の会）、山下理事長（馬淵川沿岸土地改良区）、後列左から田山協議会長（岩手県多面的機能支推進協議会）、千葉農村整備担当技監（農林水産部）、多田参事兼総括課長（県農林水産部農村計画課）、伊藤総括課長（同 農村建設課）】

「岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞」は、地域共同の力で農地や農業用水等の地域資源や農村環境の保管理に取り組み、県内の模範となる団体へ贈られるもので、3団体が受賞した。

○岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞

受賞団体	市町村
花輪地区基礎活動組織	宮古市
泉沢地区農地・水環境保全会	西和賀町
小軽米地域資源保全会	軽米町



【前列左から伊東代表（花輪地区基礎活動組織）、中野代表（小軽米地域資源保全会）】

令和元年度予算の十分な配分を要請

— 岩手県と合同で農林水産省へ要請 —

本会は1月29日、農林水産省に対し、令和元年度当初予算の本県への配分について、県と合同で要請活動を行った。

岩手県農林水産部の千葉匡農村整備担当技監と本会の及川正和会長が、室本隆司農村振興局長、太田豊彦農村振興局次長、横井績整備部長に面会し、多面的機能の維持や農地利用集積の向上を図るため、地域の特性に合った高い農業生産力を発揮できるよう十分な予算配分を要請した。



【室本局長(中央)に要請書を手渡す千葉担当技監(左)と及川会長(右)】

土地改良区の運営基盤強化に向けて

— 平成30年度水土里ネット役員研修会を開催 —

本会は、1月24日から25日、盛岡市つなぎ温泉「ホテル紫苑」において『平成30年度水土里ネット役員研修会』を開催し、進藤金日子 参議院議員（都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問）、高居和弘 東北農政局農村振興部長、千葉匡 岩手県農林水産部農村整備担当技監、多田繁 同参事兼農村計画課総括課長、伊藤啓治 同農村建設課総括課長、宮崎まさお 都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問を来賓に迎え、土地改良区役職員等306名が出席した。

開会にあたり、及川正和 本会会長が「令和元年度は、臨時・特別の措置546億円を含む当初予算4,963億円と、30年度補正予算1,488億円を合わせて6,451億円が措置される見込みとなった。この予算は土地改良関係者の悲願である“21年度当初予算額への回帰”に向け回復しつつある。本会としても、中山間地域が8割を占め、他県にもまして農業者の高齢化の進行と担い手確保が喫緊の課題となっている本県において、持続可能な地域農業を支える農業生産基盤整備を皆様とともに推進していきたい」と挨拶した。



【主催者挨拶する及川会長】

そして、高居和弘 東北農政局農村振興部長、千葉匡 岩手県農林水産部農村整備担当技監から挨拶をいただいた。

研修1日目は、千葉匡 岩手県農林水産部農村整備担当技監が『いわてNNビジョン2019(案)』と題し、本県における農業農村整備分野の4年間（2019～2022）にわたる施策の展開方向について説明した。

次に、木下幸雄 国立大学法人岩手大学准教授が『農業経営力を向上させる農業・農村の基盤づくりを考える』と題し、“人間的要素”“生産基盤”“経営の仕組み”を経営力の三要素として、それぞれの課題や向上するための取組事例を紹介した。

続いて、進藤金日子 参議院議員（都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問）が『我が国

の食料と農業・農村を考える』と題し、農家所得の向上に向け、土地改良予算と水田フル活用対策予算の確保の重要性について説明した。



【講演する進藤参議院議員】

また、宮崎まさお 都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問が『農業農村整備の今後の展開方向』と題し、“大切な農地と水を守る”“農山漁村を災害から守る”“美しい農山漁村を守る”の3つの大きな方向を掲げ、『土地改良は未来への礎』であると述べた。



【講演する宮崎都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問】

2日目は、飯田聡 株式会社クボタ特別技術顧問が『土地利用型農業の推進に向けたスマート農業への取組～基盤整備と連携した農業機械の開発研究最前線～』と題し、ロボット技術や情報通信技術（ICT）の活用による農作業の省力化など次世代型農業機械の研究開発について紹介した。

最後に、坂田賢 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門上級研究員が『広域・圃場レベルにおける稲作水管理の自動化に向けた取組』と題し、ICTを活用し、土地改良区が管理するポンプ場から農家が管理するほ場の給水栓までを連携させ、水利用に応じた効率的な配水を行う水管理制御システム『iDAS（アイダス）』の仕組みを解説した。

出席者は、各講師からの貴重な講義を傾聴し、今後の土地改良区運営基盤強化に向け思いを新たにしていた。

陸前高田土地改良区が発足

— 東日本大震災を乗り越えて更なる運営基盤の強化を図り、地域農業の発展に貢献 —

合併の認可申請をしていた陸前高田市の金成土地改良区と気仙川土地改良区は、12月25日、県から認可を受け「陸前高田土地改良区（理事長：熊谷研）」として新たなスタートを切った。両土地改良区は、平成29年12月に統合整備推進研究会、平成30年4月に同協議会を設立し慎重に協議を重ね、同年8月に合併予備契約を締結して合併に至った。

合併後の土地改良区は受益面積334.4ha、組合員数847人となって、合併前の重複組合員を解消するとともに、より質の高いサービスの提供が期待される。



陸前高田土地改良区 合併認可指令書交付式

【金成土地改良区、気仙川土地改良区、岩手県、陸前高田市の関係者】

— 令和元年度水土里ネットいわて新規採用職員 —



千葉 匡
(ちば ただし)
参 事



鈴木 理史
(すずき まさふみ)
農村振興部農村
整備第二課技師



波田野 岳空
(はたの かく)
農村振興部農村
整備第一課技師補



獄間沢 秀明
(かくまざわ ひであき)
農村振興部資源保全
推進室現地指導専門員



藤根 貞光
(ふじね さだみつ)
農村振興部資源保全
推進室農地・水専門員



藤原 盛
(ふじむら さかり)
農村振興部資源保全
推進室農地・水専門員

— 平成30年度水土里ネットいわて資格取得者 —

○技術士



【高橋 知大】

○技術士補(3名)



【山澤 悟】



【平野 海芳】



【伊東 一成】

○農業土木技術管理士(2名)



【中村 政美】



【熊谷 英則】

○農業水利施設 機能総合診断士



【山田 貴清】

○土地改良 専門技術者



【石岡 崇】

○第二種 電気工事士



【徳永 真】

令和元年度 水土里ネットいわて事務局体制図

